

<報道関係各位>

慶應義塾大学医学部 坪田一男

「抗酸化でドライアイ治療」

血清成分中に、一般的なドライアイの治療では治らない重症のドライアイに効果的な成分が含まれていることは報告があり、一部眼科では自家調剤で使用されている。しかし、血清中のこういった成分が、眼にどのような影響を与えるか証明した研究は今まで発表されていなかったが、今回、慶應義塾大学医学部眼科の坪田教授のチームの樋口明弘（総合医科学研究センター）らが、血清成分にドライアイを治すセレノプロテイン P という抗酸化物質が存在することを一般英文雑誌 PLoS ONE に報告した。

セレンはヒトにとって必須微量元素の一つであり、生存に不可欠なものであることが知られている。セレノプロテイン P はこのセレンの輸送を担うタンパク質である。セレンの持つ重要な機能の一つに生体内における酸化ストレスの消去が上げられる。涙腺を除去したドライアイモデルラットを正常ラットと比較すると、角膜傷害と酸化ストレスの上昇が認められた。このラットにセレノプロテイン P を点眼投与することにより、角膜傷害と酸化ストレスを低下させることができた。さらに、セレノプロテイン P が涙腺でも産生されて涙液中に分泌されていることや、一部のドライアイ患者では涙液中のセレノプロテイン P 濃度が低いこともわかった。血清成分の中で重症ドライアイに有効な成分として、抗酸化物質であるセレノプロテイン P が中心的な役割を果たしていると考えられた。

本発表資料のお問い合わせ先

慶應義塾大学医学部総合医科学研究センター（担当:樋口）

Tel: 03-5363-3972